

令和7年度 第1回 伊東市社会教育委員会議事録

日時：令和7年7月3日（木）

14時00分～15時50分

場所：市役所高層棟8階 大会議室（西）

〈出席委員〉 渡邊委員長、鈴木副委員長、加藤(好)委員、嶋田委員、石井委員、
加藤(雅)委員、田尻委員、池田委員、小川委員

〈欠席委員〉 高田委員

〈伊東市教育委員会・事務局〉 西川教育部長、山下生涯学習課長
生涯学習課木部課長補佐、上原係長、鈴木主事

〈傍聴者〉 4人

1 委嘱状交付

西川部長から出席委員に対し委嘱状の交付を行った。

2 教育部長挨拶

西川部長よりあいさつ

3 役員選出

伊東市社会教育委員条例第6条の規定に基づき、互選により委員長及び副委員長を選出した。

委員長には渡邊委員、副委員長には鈴木委員が選出された。

4 自己紹介

今年度から新たな任期になったため、各委員より自己紹介を行った。

（渡邊委員長、加藤(好)委員、嶋田委員、鈴木副委員長、石井委員、加藤(雅)委員、田尻委員、池田委員、小川委員の順で自己紹介を行った。）

5 傍聴者対応

本日の委員会の傍聴希望者は4人であることを報告し、傍聴を許可した。

6 議事

(1) 社会教育委員について

事務局木部から説明し、以下の通り質疑がされた。

委員①：社会教育計画については今後策定する予定はないか。

事務局：今すぐ作るという予定はない。社会情勢等をみて検討していく。

(2) 伊東市教育行政の基本方針等及び生涯学習課令和7年度スケジュールについて

山下生涯学習課長から説明し、以下の通り質疑がされた。

委員①：市子連が活動を休止しているが、市内の子供会が全部なくなったというこ

とか。

事務局：各地域の子供会が減っている現状を鑑み、全体を統括していた市子連は休止している。全体の廃止状況は把握していない。

委員②：地域学校協働活動は小中学校だけでなく、東部特別支援学校や臨海学園などに輪を広げていくことを視野にいれてみてはどうか。

事務局：学校という括りでは特別支援学校もあることから、連携としてどのようなことができるか等、輪を広げるというところでは、相互の交流等、新たなものが生まれる可能性もあるので、情報収集していく。

委員③：地域学校協働活動の成果や課題について教えてほしい。

事務局：成果については、当初想定していた活動以上に広がりが見られ、例えば、部活のコーチを呼んでいる中学校や校内の環境整備の一環で講師を呼んで、生け花の指導を行っている学校もあり、多岐に渡った活動をしていただいている。

課題については、学校からの要望に対して、コーディネーターがその活動にあった人材（ゲストティーチャーやボランティア等）を探すことに苦慮している。また、コーディネーターについては、学校の内情と地域の内情の両方を知った上で、繋げていただくことがスムーズな運営に繋がると考えているが、なかなか条件に合う方を見つけられず、人材確保が課題となっている。

委員④：地域学校協働活動については、働き方改革の関係で出来た制度だと思われる。今まで先生がやってきたことを地域の方が協力してくれる。新たに立ち上げる際は、学校側の負担も大きいとは思いますが、学校には積極的に手を挙げていただきたい。

事務局：まずは、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を学校が立ち上げる必要がある。委員の人数制限もある中で、伊東小、南小、南中など大きな学校は地域のエリアも広く、委員の選任などが難しく、手を挙げられない状況だと思われるが、選任等がうまく進めば、学校の負担を軽減できると思うので、事務局としても積極的に学校には手を挙げてもらいたいと考えている。

(3) 中央会館（伊東図書館）の現況 及び 今後の可能性について

事務局木部から説明し、以下の通り質疑がされた。

委員②：西小の方が中央会館より高い津波がくるということか？歴史的な視点から考えると、関東大震災の津波では、大川橋周辺は甚大な被害を受け、役場も流され、どこに臨時の役場を建てるかとなった時に、西小学校の敷地に設置した歴史もあり、津波がこないのであれば1階を使用できるので費用を抑えられるはず。西小の方が中央会館より安全だと思うが、津波の出典先はどこかを確認し、歴史も踏まえて検討してみてはどうか。

事務局：静岡県GIS（統合基盤地理情報システム：静岡県が公表している「みんなのハザードマップ」）の情報で、地図上でカーソルを合わせるとその地点の津波の最大浸水深が出るもので、敷地内のプールの辺りで最大で3.6mとの数値が出ている。

委員②：今後、この2案について、どのようなプロセスで合意形成を諮っていくの

か。

今回はパンフレット等を作成したり、説明会を行ったりしていたが、どのように考えているか。

事務局：今後のスケジュールについては、議会でも答弁があったが、今年度は実現可能性の調査を行い、8年度から議論していくことになると思う。市長は市民の意見をよく聞いてと言っているため、その意見聴取の方法についても検討していく。

委員①：新図書館建設については、これまで社会教育委員会でも議論してきたし、市民に対してもパブリックコメントを行ったりしてきた計画なので、新市長のもと、建設が中止になったことは非常にがっかりしている。西小リノベ案や中央会館長寿命化案で、耐震性能をランクⅡからランクⅠaにしたものの説明があったが、築年数51年や45年経過している建物で、躯体のコンクリートの寿命もある中で、耐震補強でどこまでできるか、限界があるし、ランクⅠaにするのは正直厳しいと思っている。また、雨漏りの修繕が必要と説明があったが、防水工事をして、すぐに水が浸入してしまう実状があり、どこも苦労しているため、築30年以上すると、建て替えることも検討している。リノベーションにお金をかけてやるのが本当に良いのか、無駄なお金を使うことにならなければよいと思う。自分としては、前の計画はダメだとしても、国の補助金を活用したりして、小規模にしてもよいので新築した方がよいと思う。

委員④：委員①と同意見。これまで議論してきただけに残念。そうすると、提示された2案しかないのかもしれないが、2案の比較をみたら余計新築の方が良いと思う。自分はこの会議で説明等うけていたため知っていたが、選挙の立会人を一緒にやった人も、補助金のことなど、全然知らなかったと言っていたし、選挙の時には、建設コストや運営コストというところにばかり目がいってしまい、本当に大事な部分は市民には伝わっていなかったのではないかとと思っている。

委員⑤：自分も2人と同じでこの2案については反対。図書館はすごい大切な施設だと思うし、新しい図書館が進むのを楽しみにしていた人もいる中で、反対されてしまい、今の子供たちはどうすればよいのか。正直、伊東市の学校の図書室はお粗末だと思う。新しい図書館ができるまでは、学校の図書室に力を入れてみたらどうか。本の紙の温かさを子供たちに教えていくべき。

委員⑥：もし仮に、小さくして新築となった場合、今の中央会館の会議室などの機能はどうなるのか？ガールスカウトでは、研修室を使っている時でも調べものがある時は、2階の図書館へ行かせている。そのような使い方はできなくなるか。できれば、図書館＋研修室みたいな使い方ができると子供たちにとってもよいと思う。

事務局：中央会館の移転ということになるため、貸室機能は必要だと考えているが、42億が高いと言われている中で、いくら程度の規模感が妥当なのか、その中でどこまで盛り込めるのかということになると思うが、図書館単独にはならないのではと考えている。

委員⑦：伊豆伊東高校の図書室は使い勝手がよく、市の司書と連携して高校生が読みやすい本を期間限定で提供してもらおうようなことをやっていこうと打ち

合わせをしたところ。

図書館建設が先に延びてしまったが、本が好きな子供たちは、良い図書館で、好きな本だけではなく、いろんな分野の本が並んでいるのを見て、新たな分野との出会いがあると思う。42億円が高いと言われているが、他の市町との比較や、ランニングコストの比較の資料も見たが、図書館が贅沢品なのか、文化としてのインフラ機能なのか、これから育っていく子供たちの情操教育の観点からも考えていかなければならない。

委員⑧：確かに金額は高いかもしれないが、子供たちの人間形成をする場を造るということにおいては高いのか。これまでの計画は、昔のようなただ本を読めればよいという図書館ではなく、高齢者や子ども連れの方が気軽に利用しやすい図書館を目指して構想から作ってきたため、その経過を知っているから非常に残念に思う。

委員⑨：当初の予定より物価高、建築材料の高騰等で、費用が高くなったことにみんなびっくりしたんだと思う。図書館は文化の拠点だと思っている。市民にとって誇りになるような図書館が良いし、石川県の県立図書館のように、図書館を目当てに旅行に来るなど相乗効果もあると思う。市民からコスト面の42億円ということにNoを突き付けられた結果になったが、図書館は文化の拠点であり、子供たちのことを考えるとリノベーション案では悲しくなる。西小跡地でも良いが、新築し、子供たちが誇れるような図書館であってほしい。

委員②：費用を抑えて質を落とさないようにこれまで検討、提言してきた。例えば、ハブ機能としての郷土資料については、文化財管理センターの隣の旧竹の台幼稚園が空いているので、そこに移す。その分図書館のスペースは減らすことができる。人件費という部分で言えば、ジオパークや自然歴史案内人等、協力してくれるボランティアを活用すればよい。また、図書館の恩恵を受けられるのが街中だけではダメで、宇佐美や伊豆高原にも行き渡らなければならない。全地域のネットワーク化の拠点になるなら小さくてもよい。

質問だが、廃校利用について、補助金は活用できないか。

事務局：同じ補助金のメニューとして既存施設を活用したメニューもあるが、この補助金は5年間の都市再生整備計画を立て、国に認められた場合にその事業に対して補助が出るような仕組みである。現計画の変更が認められるか、規模を変更したことで目標等を達成できるのか等、まず計画を立て、国に認めてもらう必要がある。

委員③：補助金が認められない場合は、この2案についても補助金が活用できないということか。

事務局：今後、国や県に相談していくことになるが、現計画が令和11年度末までに供用開始しなければならない縛りがあることから、どの案になるとしても、このスケジュールに間に合うことができ、かつ、国に計画変更を認めてもらうことが、補助金を活用する条件になってくる。計画変更が認められないのであれば、別案を検討する必要がある。

委員⑦：廃校を図書館にした事例はあるのか？

事務局：分館の事例が多いとは思う。立地条件等が違うので、コスト面を比較することは難しいと考えている。

委員②：熱海市の図書館本館は、東電をリノベしている。

委員⑦：県立の静岡南高校は廃校利用で博物館、地球環境史ミュージアムにリノベしており、あえて教室を残した造りにしている。

委員①：いろいろ良い事例はあるが、築年数が古すぎて厳しいと思う。

委員⑨：豊島区役所は、上階が賃貸になっている。コストが問題であれば賃貸などできないか。

委員④：現図書館は面積や蔵書数など県下でもかなり低い。教育は大事で、42億円は高いとは思いますが、リノベーションはやめて新築にした方がよいと思う。

(4) その他

議題以外で、自由なご意見を伺い、以下の通りの発言がされた。

委員⑥：毎年青少年キャンプ場を使用しているが、トイレの底が抜けそう。和式トイレ使えない子もいる中で、トイレが嫌だからキャンプにも参加したくないと言っている子もいるので、どうにかしていただきたい。

委員②：小中学生が研究して提出された優秀な作品等を、図書館として収集・保存（デジタル化）等により、未来の子供たちが活用できるようにするべき。それが子供たちの文化になる。図書館の建物のことも大事だが、中身のことも考えていってほしい。

以 上